

春夏2冠 “札幌最強、札幌国際情報男子バスケットボール部が初の全国切符へ挑む

#観客限定 #道産子 #高校バスケ #札幌国際情報

シェアする

ポスト



春季札幌支部と総体札幌支部で2冠を達成した札幌国際情報男子バスケットボール部＝撮影・西川薫

6月19日から函館で北海道大会

全道高校バスケットボール大会が今月19日から函館サーモン・まるなまアリーナほかで開催される。男子の札幌国際情報は5月の札幌地区春季大会と今大会の札幌支部予選で共に初優勝で2冠を達成。初日に行われる函館大谷とのDブロック1回戦で登場し、初の全国切符へ挑む。

【#高校バスケ 関連ニュース一覧】

10年ぶりに序列を覆した公立校

公立校として10年ぶりに札幌支部を制した“札幌最強、チームが、全道の頂点を見据える。札幌東月寒中2年時に全国中学を経験し、昨年は1学年上の代でも主力としてプレーしてきたPG武田瑛希（3年）は、4強入りしての決勝リーグ進出を目標とした上で「全国に行きたい気持ちはもちろんある。一試合一試合、目の前の試合から一つ一つ勝って、決勝リーグに残って、決勝リーグで（全国出場枠の）2位に入れるように頑張っていきたい」と、全国大会が開催される大阪行きのチケットをなんとしてもつかみ取る。

■ 実力を証明した札幌での戦い

チームスタイルはマンツーマンディフェンスを中心とした粘り強い守備から、素早い切り替えでゴールへのアタックだ。5月上旬の春季札幌大会では4回戦から登場すると北星大付に69-44で快勝。準決勝では、新人戦札幌支部優勝の東海大札幌高を破った札幌工業に67-51で勝利し、決勝でも札幌光星をロースコアの66-58で下して初優勝した。

それだけだったら「瞬間風速」と評価されたかもしれない。続く同下旬の今大会札幌支部予選では準決勝で札幌山の手を、決勝では東海大札幌高との直接対決を制し、その実力が確かなものであることを証明した。武田主将は「春季大会でもインターハイでも札幌で優勝することができて、全道に向けて全員が勝ちに行こうという気持ちで臨んでいる」。チームの士気もうなぎ上りだ。



札幌国際情報の司令塔となる武田主将（右）

■ 底上げ成功し走り負けないチームへ

昨年11月の新人戦の全道大会では1回戦で白樺に敗戦。石井秀貴コーチ（49）は「7人しか使えなかった。それでは勝負できない」。今春までにセカンドユニットを底上げ。チームとして戦う準備ができあがった。オールコートプレスは体力的には厳しいが、「やり切らないと留学生のいるチームとかに勝てないと思うので、やり切りたい」。堅守速攻を標榜するチームにとって、走り負けないことが勝利への絶対条件だ。

■ 一昨年に前任監督が体調不良で退職 外部指導者も毎回は来られず…

▼▼以下、有料記事▼▼

逆境を乗り越え、集大成の時を迎えた。一昨年、現在の3年生が入学してから約1カ月後、前任の監督が体調不良で退職。専門知識のある指導者が不在だったが、札幌支部で6位に食い込み、全道に出場した。同9月には実業団の札幌市役所で全国準優勝の経験がある石井コーチが外部指導者として監督に就任した。「それまでは先輩方が自分たちで練習を考えて、選手でやらなきゃいけないってことが多かった。石井さんが来てからも毎回来られるわけではないので、自分たちで考えてやるが増えた」。指導者不在が逆に選手たちの自主性を伸ばした。

実績ある指導者そろいスタイル確立

石井コーチは昨春、外部指導者から北海道の部活動指導員に身分が変わった。すると夏の全道高校やウインターカップ道予選でも1勝して16強入り。コツコツと実力を伸ばしてきた。そして今春、小樽潮陵で11年間指導してきた信清浩史教諭（46）が赴任。昨年、プロバスケットボールのB2で監督を務めることができるA級コーチライセンスを取得。道内では20人しか所持おらず、S級に次ぐ上級資格だけに心強い。大会では監督としてベンチ入りし、石井氏がコーチとして、これまで通り采配を担う。



今春、A級コーチライセンスを持つ信清監督（中央奥）が就任した

全てを話さなくても分かってくれる

信清監督は小樽潮陵監督時代に全道8強入りするなど、昨年まで9年連続で2大会で全道出場の実績がある。まだ就任して2か月ほどだが「石井さんの指導プラス、自分たちで考えてやるというスタイルが確立されていたから、こちらが全部デザインしなくても、ちょっと話をするだけで、その2歩先ぐらい行ってプレスを実行してくれる。あえて答えを全部言わなくても、自分たちでどんどん考えてくれるから、その辺は見ていて面白いですね」。武田主将は「今まで自分たちで考えることが多かったので、戦術的な部分という細かい動きの部分とか、なかなか合わないことが多かったんですけど、そこに信清先生が来ていろいろ教えてくださって、チームのプラスになってる」と歓迎する。

現チーム最後の大会で全道の頂点へ

3年生はマネジャー2人を含めて17人いるが、受験準備のため今大会が高校ラストマッチ。石井コーチも今大会を最後に信清監督にバトンを渡す。武田主将は「一緒に今までやってきたので、最後もいい形で終われたら。負けたら終わりなので特に3年生が気持ちを入れて、試合の最後のブザーが鳴るまでしっかり、今までやってきたことをコート上で表現したい」。まずは「札幌最強。から」全道最強。へのし上がる。